



ICYS Workshop 2025

ICYS ワークショップは、ICYS リサーチフェローが自身の研究成果を発表し合い、材料科学分野の知識を深めるとともに、英語でのプレゼンテーション能力や分野の異なる参加者へのアピール力、討論での説得力のある意見を述べる能力を育成する機会です。また、分野を越えた新しい視点やアイデアを得る有意義な機会でもあります。

2025 年の第 17 回目となるワークショップは、11 月 6 日、7 日の二日間にわたり行われました。ICYS リサーチフェローに加え、センター長、メンター、ICYS 卒業生が参加し、総勢 29 名の活発な交流が行われた会となりました。

基調講演にはタイの VISTEC から Daniel Crespy 教授をお招きし、最新の研究トピックについてご講演いただきました。また、現在 NIMS で活躍している ICYS 卒業生の早川竜馬

研究員と南皓輔研究員による、カジュアルな雰囲気の講演もあり、参加者同士が気軽に意見を交わせるきっかけとなりました。

初日、土谷 ICYS センター長代理の挨拶に続き、高木英典 ICYS センター長（独マックス・プランク固体物理学研究所所長）が「Materials Perspectives on Superconductivity Research - How many roads to high-temperature superconductivity?」をテーマ

に、印象的な講演を行い、参加者の探究心を刺激しました。続く ICYS リサーチフェローによる研究発表にも熱がこもり、質疑応答では活発な意見交換が展開されました。



夕食後のファイヤーサイドセッションでは、ICYS 卒業生の早川竜馬 主幹研究員（ナノアーティクルニクス材料研究センター 半導体材料分野 半導体機能デバイスグループ）が「Multifunctional logic circuits with organic anti-ambipolar transistors」、



南皓輔 主幹研究員（高分子・バイオ材料研究センター バイオ材料分野 嗅覚センサグループ）が「Nanomechanical Sensors Towards Artificial Olfaction: From Fundamental to Applications」について、講演を行いました。参

加者はリラックスした雰囲気の中、普段とは異なる発想に触れる機会となりました。

二日目は、Daniel Crespy 教授による「Formation of ultrasmall nanoparticles in miniemulsion and their applications」の講演から始まり、講演後には ICYS リサーチフェローたちから質問が寄せられて、活発な意見交換がなされ、非常に充実したひとときと

なりました。



最後に、高木 ICYS センター長が招待講演者、ICYS 卒業生、メンターをはじめとする関係者への感謝の言葉を述べ、ワークショップは盛況のうちに閉会となりました。